令和8年度　釧路支部　前期活動報告

令和８年 10 月 15 日（木）

Ⅰ．研究内容について

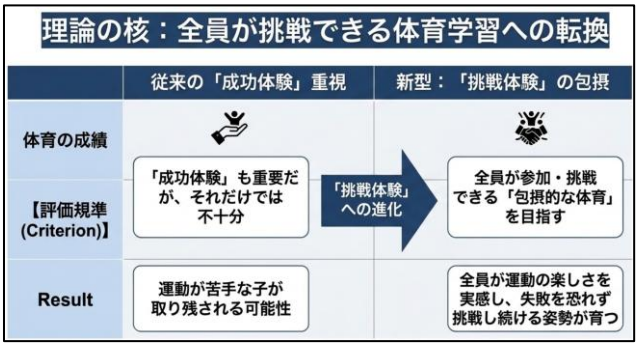
（１）釧路支部　研究主題

『運動の面白さに触れ、体育の楽しみ方を広げ深める子供の育成
～子供も大人も夢中になれる体育学習～

（２）研究の視点・具体

①研究の背景(社会の変革と PE の再定義･釧路の実態)

Society 5.0 や VUCA の時代において、「正解のない問い」に向き合う力が必要であること、OECD が提唱するウェルビーイング中心の体育への転換の必要性が見えてきている。釧路の体育も、まだまだ「正解を教えたがる指導」が多い。



②研究の考え方Ⅰ(挑戦体験へのシフト)

従来の「成功体験（スキル偏重)」から、全員がどきどき・わくわくして挑める「挑戦体験」へのパラダイムシフト。「正解を教える指導」からの脱却へ。

③研究の考え方Ⅱ(夢中＝フロー状態の構築)

子供も大人も「夢中」になるための条件（挑戦とスキルのバランス、明確なフィードバック）を整理し、探究的な学びの構築へ。

④研究主題に迫る３つの手立て

❶「挑戦」のある単元デザイン、❷「安心」のある環境設定、❸成長を「実感」させる学習評価の体系図を示し、体育仲間と理念・理論を共有する。

⑤研究方法の質的転換（事実解釈型）

授業者の腕を品定めする「仮説検証型」から、子供の中に起きた事実をみんなで読み解く「事実解釈型」への研究方法の転換を目指す。単元構造図にエピソード記述を加え、「実践報告」として子供の変容や運動の面白さとの関わり等を事実として残していく。

⑥進化し続ける研究サイクル

単なる「check（評価)」ではなく「Study（検討)」を核とした PDSA サイクルと、目指す授業像そのものを問い直す。授業記録シートに子供の姿（事実）を残し、そこを基に解釈し合う。

２．令和８年度の取組

（１）研究部の理念・方向性（令和８年度より新主題設定に関わって）

「子供も大人も夢中になる体育」の実現に向け，「すごい授業」より「子供が動いた瞬間」を語り合うことを目指して。

（２）活動内容

〇月1回の「体育授業づくり研修会」の継続的実施

- 授業づくり研修会を研究部会として位置付け、理論研究を進めていく。
- 加えて、若手の悩み相談場所の役割を担える会にできるよう、日常実践交流の場を設ける。
- 公開授業に必要な学習指導案の作成支援など、一人一人の資質向上に寄与できる会とする。

〇授業実践の蓄積

- 仮説検証ではなく事実蓄積型の研究内容であることから，主題に迫る授業を実施。
- 実践報告集の作成を行い，主題についての検証を進める。
- 公開授業を基に，たくさんの視点で「子供が動いた瞬間」の手立てや場面を共有。

〇令和9年度の全道大会に向けた授業者選定、授業構築を進める。

- 授業者は、釧路市内・釧路町内の先生方からピックアップしていく。
- 授業構築については，実践報告を基にしながら，児童生徒の実態を基に手立ての検討を行う。
- 「子供が動いた瞬間」を共有するために，全道参会者への授業観察の視点の整理を行う。

〇会員増加に向けた、釧路支部の取組 PR を積極的に行う。

- 事務局、広報との連携を図り、会員募集を適宜行えるようにする。

〇令和9年度までの見通し

- 令和８年度……プレ全道大会、授業公開、実践資料作成、新たな体育仲間募集
- 令和９年度１０月２２日（予定）……第６３回北海道学校体育研究大会釧路大会